Newsletter from Cambodia

17

リビングフィールド

2026年
10月



スオスダイ！（こんにちは）

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいされ、カンボジアでの宣教活動での継続が導かれました。

2024年1月に支援グループ「リビングフィールドの会」が発足し、更に2025年8月には、韓国の宣教団体「WUPM」への加盟が実現しました。主の御言葉と導きによって、現地での活動を継続しています。

近況報告

皆さん、いつも温かいお祈りとご支援、ありがとうございます。カンボジアの雨季は１１月中旬まで続きます。今年は例年より雨が多く、１０月はほぼ毎日のようにスコールが来ました。朝から雨が降り続くことも多く、市場で働く人やトゥクトゥク（三輪バイクタクシー）ドライバーなど、屋外で働く人にとっては厳しい雨季となりました。蚊の発生によりデング熱などの病気も例年より多かったようです。私たちは大きく体調を崩すことなく、主の守りと皆さんの祈りの支えを実感しています。以下、主に９月と１０月の出来事をお伝えします。



１０月の子どもイベントに参加した子どもリーダーたち



誕生日会を見守る、子どもたちのお母様たち

新しいことが、この地に起こる
―CBUオフィス教会―

ＣＢＵオフィス教会では、毎月第４日曜日に誕生日会を行っています。８月末の日曜日、教会へ入ると、そこにはこれまで見たことのない光景が広がっていました。子どもたちだけでなく、多くの大人たちが座って待っていたのです。それは子どもたちの両親や祖父母たちでした。誕生日会では、我が子が祝われる姿を嬉しそうで撮影している母親の表情がとても印象的でした。普段の礼拝は20人から30人ほどですが、この日は50人を超える人が参加しました。クリスマスなどの特別な日を除けば、これほど多くの人が集まったことは、これまであまりなかったように思います。

見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。
イザヤ４３：１９

この日の礼拝メッセージのテーマは「主の御名」でした。「イエス」という名前は、「神は救う」という意味です。私たちを罪から救うために、神様がイエス様をこの世に遣わしてくださった。これは、私たちが伝えたい福音のまさに根幹です。この日神様が、教会近くの貧しい集落から、これまでにない多くの両親を、教会へ導いてくださいました。そして、集まったひとりひとりの心に、福音が届けられました。

礼拝の後には集落の方々へ、ニバス師からお米が手渡されました。 それは小さな恵みかもしれませが、神様からの確かな、恵みの分かち合いです。私たちの教会は、この分かち合いを大切にしています。



主日礼拝の様子
この日は、５０人を超える方々が参加されました。



集落から来られたお母様方、女性たちに
ニバス理事長（右）からお米が分かち合われました。

この集落では、昨年11月に大きな火事が起こり、9軒の家が焼失しました。すでに数軒は再建されたものの、多くの家はいまだ再建の途中にあります。 子どもたちも、その家族も、今なお多くの困難を抱えながら暮らしています。だからこそ、この日初めて教会へ足を運んでくださった方々が、これからもこの場所につながってほしいと願っています。 そして何より、イエス・キリストにある確かな希望を知り、その希望の中にある新しい未来を歩んでほしい、そう願い、祈らずにはいられません。 聖書には、こう記されています。「見よ、わたしは新しいことを行う。今や、それは芽生えている。」（イザヤ43：19）。新しいことが、この地に既に始まっているのです。

共に礼拝をささげる
ープレイヴェーン州訪問ー

９月、１０月と、プノンペンから車で2時間ほどのところにあるプレイヴェーン州、ムッポーン先生のご自宅を訪問しました。昨年9月に初めて訪問してから、早くも１年が経ちます。これまで宣教チームと定期的に訪ねてきましたが、この9月からは、毎月第1日曜日に訪問し、一緒に礼拝をささげるように導かれました。９月の訪問では、いつも以上に多くの子供たちが集まってくれました。子どもたちは元気いっぱいに賛美をささげ、詩編を1節ずつ朗読していました。



プレイヴェーン州、ムッポーン先生の家の教会
礼拝を導くムッポーン先生



箱に入った暗唱聖句カードを選ぶ子どもたち

この時は子どもたちへ、暗唱聖句カードを渡しました。聖句は創世記1:1「はじめに、神は天地を創造された」、1テサロニケ5:16-17「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことに感謝しなさい」など、CBUオフィス教会の日曜学校で取り組んできた暗唱聖句です。

先生のアイデアで、箱からくじ引きのようにカードを1枚選び、翌週までに覚えてきた子にご褒美をあげる仕組みにしました。子どもたちは楽しそうにカードを見せ合い、暗記に励んでいました。礼拝後は、即席ラーメンとジュースを笑顔で頬張っていました。

１０月の訪問では、子どもたちにだけでなく、大人の参加者も与えられました。ほとんどの子どもたちは、先月渡した暗唱聖句カードを使って、聖句を覚えていました。　この日、マルコ４章の種まきのたとえを、視覚教材を使って子どもたちにお話しました。その際、私たちがクメール語で伝えきれていない部分を、ムッポーン先生が補足してくれました。ムッポーン先生の語り口は力強く、大人も子どももそのメッセージに聞き入っていました。ムッポーン先生とお話しをするたびに、純粋に神様を信頼し、与えられた働きを続けておられる姿に、いつも励まされています。



礼拝後、即席ラーメンを食べる子どもたち。



ムッポーン先生（左）、近隣に住む２人の女性たち。
いつもムッポーン先生を助けてくれます。

一度の訪問から始まった小さな出会いが、少しずつつながり、関係が育まれ、今ではこうして共に礼拝をささげています。私たちが何かを計画してここまで来たのではなく、神様がひとつひとつの出会いを用い、道を開き、ここまでと導いてくださったのだと実感しています。

神様がなさることは、いつも私たちの想像を超えています。だからこそ、これからこの場所で神様が何を起こそうとしておられるのか、楽しみでなりません。どうぞ引き続き、この地での宣教が導かれるように、お祈りください。

心からささげる
ー子ども伝道イベントー

１０月３日（土）、今年で４回目となる子ども伝道イベントがプノンペン郊外で開催されました。インド・ミゾラム州出身の宣教師たちが活動・支援している、ホライオス・バプテスト教会主催です。プノンペン、地方合わせて合計７か所以上の教会から、１００名を超える子どもたちが参加しました。テーマ聖句は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい」（１テサロニケ５：１６－１７）です。



子ども伝道イベントの様子
今年も１００人を超える子どもたちが導かれました。



特別賛美「クニョム・サバーイ」（私はうれしい）
７人の子どもリーダーたち

ＣＢＵオフィス教会の子どもたちは、子どもリーダーを中心に、特別賛美「クニョム・サバーイ」（私はうれしい）をハンドベル演奏と振り付け賛美によっておささげしました。リーダーたちは、いつも、毎週の主日礼拝でしているように、生き生きと楽しそうに、心をあわせて賛美をささげました。

実は、今回のイベントでは、予想外のできごともありました。それは、急きょ司会の奉仕、奏楽（カホン）の奉仕、そしてゲーム進行係の奉仕の機会が導かれたことです。司会はケマさん、奏楽とゲームの奉仕は、私たちの教会の二人の青年が担ってくれました。これらの奉仕についても、普段から教会で担っているように、喜んで奉仕をおささげしました。

イエス様は言われます。「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。」（ルカ16：10）子どもリーダーたち、そして教会メンバーたちは、いつも忠実に賛美や奉仕をささげています。神様はそれをご覧になり、今回このような大きな奉仕の機会を与えてくださったのでしょう。そこには、仕える喜びがあったことでしょう。

私たちはキリストにあって、いつも喜び、そしていつも祈ることができます。賛美や奉仕を、喜びをもってささげることができます。今回のイベントで、本当に多くの恵みと祝福を主から頂きました。主催してくださったホライオス・バプテスト教会の皆さんに、そして何より全てを導いてくださった神様に、心より感謝します。



司会や奏楽を担ってくれた、CBU教会のメンバーたち

「希望の糸」新しい一歩

マクラメアートを用いたカンボジア女性支援「希望の糸」の近況です。私たちは、ずっと祈り続けてきました。「新しい女性が与えられるように」。私たちが願っていたのは、仕事をしたくても事情により働くことができない女性です。ついに、その祈りが答えられました。その女性、スレイオーンさんは教会から少し離れた村に住んでおり、息子さんのオートバイに乗せてもらって礼拝に来ています。きっかけは、教会近くの集落です。前述のように、この貧しい集落から、最近は子どもたちだけでなく、そのお母様方も礼拝に導かれています。



（右）新製品の作品に励むケマさんとスレイモムさん
（左）新製品のマクラメ・ハンギングポット

スレイオーンさんはその一人から、CBUオフィス教会のことを聞いたそうです。「この近くに教会があるよ」と。スレイオーンさんは、数年前に地方に住んでいた時、イエス様を信じるようになりました。事情によりプノンペンに移り、教会を探したのですが、家の近くになかったそうです。そんな中、集落でCBU教会のことを知り、礼拝に参加するようになりました。ケマさんが彼女に「希望の糸」のことを話すと、最初「やってみたいけれど、私にできるかしら……」と不安そうでした。「心配しないで。大丈夫よ」というケマさんの言葉が、彼女を後押しました。スレイオーンさんは仕事をしておらず、お子さんたちが生活を支えています。



初めてのマクラメ。基本編みに取り組むスレイオーンさん
教えるケマさん。



「希望の糸」の目的、テーマ聖句を
皆で読み合い、共に祈りをささげしました。

先日の日曜日、ケマさんが基本の編み方を教え始めました。スレイオーンさんは熱心に耳を傾けながら手を動かし、基本編みを習得していきました。その後の交わりの中で彼女は「この教会に、そしてこの「希望の糸」に導いてくださった神様に感謝します」と話されていました。

今、主の導きによって「希望の糸」に様々な変化が起こされています。これまでの水曜日、週一度から、日曜日の礼拝後も行うように導かれました。礼拝後に、ケマさんが新しい女性たちに技術を教えるためです。新製品の開発も主が導いてくださり、もうすぐ店頭に並びます。新しく加わったスレイオーンさん、さらにこれから主が導いてくださる女性たちを覚えて、どうぞお祈りください。

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内のインターナショナル校「ホープ・インターナショナル」で学んでいます。この８月から、来主は高校３年生に、栄主は中学３年生に進級しました。最終学年を迎えた来主は、２年間の国際カリキュラムの最後の段階を迎えています。日々の授業の予習復習に加え、卒業エッセイやボランティア活動など、とても忙しい毎日です。先日、ボランティア課題として行っている「希望の糸」のマーケティング活動にて、自ら営業開拓したお店で初めて製品が売れるという、喜びの出来事がありました。



新たに開拓されたお店にて、来主たちが「希望の糸」の製品ディスプレイ（棚の下段）しています。





自然豊かな、キリロム国立公園にてキャンプ

一方の栄主は２年間のカリキュラムが新しく始まり、選択科目が増えるなど、前年よりも勉強が忙しい毎日です。１０月には毎年恒例の、学校キャンプが行われました。栄主の学年は、キリロム国立公園（プノンペンから車で２時間）を３泊４日の日程で訪問しました。日本で言えば軽井沢のような、高原にある避暑地です。そのような自然豊かな環境の中で、トレッキングなどを気の合うクラスメイトと楽しむことができたそうです。

これまで、来主と栄主の学業が守られていることを主に感謝します。引き続き、学校生活が導かれるように、特に大学受験を控えている来主の準備のために、お祈りいただければ幸いです。

みこころが成るように
ーすべてを備える主に信頼してー

これまで皆さんの祈りと共に、主が現地での宣教活動と生活を支え、必要を満たして下さっています。皆さんの祈りと、全てを備えてくださっている主に心から感謝いたします。祈りと支援のネットワークが少しずつ広がり、この年末までの活動、生活の必要が満たされる見込みです。

来年１月からの宣教活動と生活のために、新たな支援者、教会が起こされるように、どうぞお祈りください。Youtube或いは動画を用いた説教奉仕、宣教報告等の御依頼を頂けると助けになります。メールやフェイスブックを通してご連絡いただければ幸いです。



お祈りとご支援に心より感謝しています
新たな支援者が起こされるように、どうぞお祈りください

＜祈りの課題＞

１． 神様の宣教に、いつも祈りながら感謝をもって、誠実に仕えていけるように。
２． CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
３．プレイヴェーン州、ムッポーン先生宅での礼拝と宣教に主の祝福と導きが与えられるように。
４． カンボジア女性支援活動「希望の糸」。新しく加わる女性たちを主が導いてくださるように。
５． 全ての必要を満たしてくださる主をいつも待ち望み、信頼して歩んでいけるように。

嶋田　和幸・嶋田　薫（WUPM宣教師）、来主（くろす、１７歳）、栄主（えいす、１４歳）

（連絡先） Eメールアドレス
dekakurosu3927@gmail.com
ホームページ：https://living-field.org/
（献金振込先）楽天銀行 ノエル支店（支店番号２４６）
口座番号 １０８１０６４ シマダ　カズユキ